

新春対談

アスリートと市長が語る

サッカー 杉田 亜未選手 (伊賀フットボールクラブくノ一)

クレー射撃 脇屋 昂選手 (上野ガス株式会社)

スポーツで活気ある伊賀市へ



新年明けましておめでとうございます。
ます。

今回の特集は、新春企画として、市内在住のアスリートと岡本市長との対談をお届けします。

お越しいただいたのは、国体に出場した経験があり、来年開催される三重とこわか国体にも出場が有力視されている伊賀フットボールクラブくノ一所属の杉田亜未選手、上野ガス株式会社所属の脇屋昂選手の2人です。

また、三重とこわか国体を応援する、伊賀市スペシャルサポーターのにな太としのぶも来てくれました。

対談では、二人のスポーツをはじめめたきっかけや、今年の抱負などを語っていただきました。

二人をはじめ、市内に住む三重とこわか国体・三重とこわか大会をめざして頑張っている人たちを、伊賀市全体で応援し、盛り上げていきましょう。

(本文中敬称略)



競技との出会い

市長 いよいよ今年は東京オリンピック・パラリンピックの開催です。そして来年には三重とこわか国体・こわか大会の開催が予定されています。伊賀市も盛り上がっていききたいと思っています。そこで今回は三重とこわか国体出場に向けて頑張ってくれているお二人に来ていただきました。

いろいろお話を伺っていききたいのですが、まずは、杉田さん。昨年は国体の連覇しましたね。

杉田 はい、ありがとうございます。

市長 なでしこリーグで勝った時より国体で勝った時のほうが、みんなが注目していた感じがしましたよね。

杉田 それはありますね。国体の影響力はすごいなと感じています。

市長 福井、茨城との連覇ですよ。

杉田 今年の鹿児島国体で3連覇して、三重国体につなげていきたいですね。

市長 リーグでは連敗もありましたが4位で終えて、よく頑張ってくれました。今年もぜひ、いい試合を見せてもらいたいなと思います。脇屋さんは、クレー射撃の選手ですが、始めるきっかけは何だったんですか。

脇屋 小さい頃からハリウッド映画が好きで、その頃から鉄砲を撃ちたいと思っていました。そのためには射撃か狩猟の許可が必要なのですが、基本的に20歳にならないと許可が下りないので、20歳の誕生日に銃砲店に行きました。

市長 ということは20歳になってすぐに銃砲店に行って、申請の仕方を聞いたわけですね。

脇屋 はい、そこで試験の日程を聞いたりして。

市長 試験があるんですね。どんな試験をするんですか。

脇屋 先に銃刀法などの筆記試験があって、それをクリアすると実技試験があります。

市長 なるほど。

サッカーを始めるのにそういう試験は無いでもんね。

杉田 そうですね。

市長 ちなみに、杉田さんはいつからサッカーを始めたんですか。

杉田 小学校3年生からです。もとも運動が好きで、何をしようかかって思っていた時に、突然、クラスの子が「サッカーしない？」って誘ってくれて。そこからですね。

市長 サッカーに興味はあったんですか。

杉田 ボール遊びが好きだったのでも、ルールは全然わからないところから始まって、やっているうちにだんだんと覚えていって。小学校の時は男の子に混ざって試合もしていました。中学校の部活動では

男の子と一緒に公式戦に出られなかったので、クラブチームに入りました。

市長 それからずっとサッカーを？

杉田 そうですね、ここまで続けるつもりはなかったんですけど、やっぱりサッカーが好きだったんでしょね。好きで続けてきた感じですよ。

市長 それだけ続けられるってすごいですね。

ところで脇屋さんの出身は広島県呉市でしたね。近くに射撃場があったのですか？





権大会で優勝したんですよ。この年は優勝ねらえるぞって感覚はあったんですか。

脇屋 それはありました。

市長 杉田さんも国体で優勝した時はそういう感覚はあったんですか。

杉田 試合が始まって、「今日は勝てるぞ」って何となくわかる時がありました。

市長 練習を積んで、あるレベルまできたら、今日は行けそうだしということが分かるんですね。三重とこわか国体でも優勝めざして練習を積んでいってください。

思い描く伊賀市

市長 ところで、お二人とも他の地域で生まれ育って、縁があつて伊賀市へ来ていただいたわけですが、伊賀市の印象はどうですか。

杉田 私は伊賀市に来て6年目になるんですが、すっかり住み慣れてしまつて。いろんな人が声をかけてくれて、すごく温かいまちだなと感じています。もっと覚えてもらつて、くノ一の知名度が上がればいいなと思います。

市長 くノ一は、子どもたちへの指導とか、地域との関わりを持つてもらつていきますので、いい成績を上げて、ますます盛り上げてもらいたいんです。

脇屋さんはどうですか。

脇屋 私は伊賀市に来て一年半ぐらいですが、自然があつたり、古いお寺やお城があつたりして、伊賀市が好きになりました。

市長 お二人に頑張つてもらつて、伊賀市を知つてもらおうシティプロモーションになれば嬉しいと思うし、行政もそれを応援しなければいけないと思つています。

さて、お二人はこれから行政にどんなことを望みますか。

杉田 自分たちはサッカーで皆さんに喜んでもらえるようにパフォーマンスをもっと上げて、結果も残していけないといけない。そして、スポーツを通じて皆さんと一緒に伊賀市を盛り上げていきたいなと思つています。なので、子どもたちとの交流だったり、いろんな形で皆さんと交流ができ

ると思うので、そういうことを一緒に企画していきたいです。

あと、上野運動公園のグラウンドの観客席がベンチ式で背もたれがないので、もたれながらリラックスして観られるような観客席だったら、もっと観にきてくれるのかなと思います。

市長 快適に応援ができるように整備をしなければいけないということですね。クレー射撃でも何かありますか？

脇屋 国体の時は会場までシャトルバスが通ると思うので、射撃場に行くまでの道を広げてもらえたらと思います。あと、射撃場の観客席は少ないのですが、応援に来てくれた人に競技全体が見えるように工夫してほしいですね。





市長 どちらも観に来てくれる人のために会場をきちんと整備しなければという事です。

2020年の抱負

市長 最後に、これからの自分たちのスポーツ活動について、抱負を教えてくださいただけたらと思います。

杉田 くノ一は昨年、リーグで4位になり、今年は優勝を狙える位置にいると思うので、優勝を目標にしたいですね。

脇屋 今年の目標は、公式大会の自己ベストが100点満点中の99点なので、それを超える100点をめざして頑張りたいです。

市長 市民の皆さんにも応援してもらって、行政もできることをしっかりと、みんなに「がんばったね、おめでとう」と祝ってもらえるようにしたいですね。

杉田 市長は今年、どんなことを頑張ろうと考えているんですか。

市長 まずは、お二人にお越しいただいているこの庁舎を、みんなに親しんでもらえる庁舎にしなければいけないと考えていますが、その一方

で旧庁舎周辺の賑わいが少なくなつたと感じています。旧庁舎を交流の場にして、中心市街地を元気にしていくことが大事なことだと思っています。

また、伊賀地域の価値を上げていく方法として、新名神高速道路と名阪国道をつなぐ名神名阪連絡道の整備が重要だと考えています。伊賀は東西の交通は便利ですが、南北の交通

が不便です。名阪国道の上柘植インターから新名神の甲賀土山インターまでを結ぶことで、行くのも来るのも便利になり、伊賀地域の価値が上がると考えています。そうすることで、市内の企業はもっと元気になつて、地域力もついていきます。そういったことが少しずつ進んできているので、関係する自治体と協力して新しい年にはさらに進めていきたいと思っています。

そして、もちろんスポーツ振興も進めていかないとけないと思います。市民の皆さんには、いつまでも元気でいてもらいたいので、生涯、スポーツを楽しみながら元気に過ごしてもらつことも重要です。伊賀市



は生涯スポーツ宣言都市を掲げますから、そういうことでも市民の皆さんに楽しんでもらえるまちにしたいと思っています。

また、地域の皆さんの絆を深めてもらうためのイベントを支援していく制度を考えていきたいと思っています。いずれにしても元気で活力ある伊賀市にしていきたいと思っています。そういう意味では、お二人は伊賀地域元氣推進大使みたいなものですから、今年は良い一年にして、来年の三重とわか国体出場をめざして頑張っていたきたいと思えます。

まだまだお話は尽きませんが、今日はありがとうございました。